

足利市の経済活性化による人口 20 万人の足利市づくりを目指して

開倫塾

塾長 林明夫

1. 日本最古の学校「足利学校」がある街にふさわしい「家庭教育日本一の足利」、「社会教育日本一の足利」、「産業教育日本一の足利」「学校教育日本一の足利」づくりを目指したい。

(1)「家庭教育日本一の足利」づくりのために

「論語教育日本一」

すべての家庭で論語に親しみ、論語を学び続けるしくみづくりを

(2)「社会教育日本一の足利」づくりのために

①「一生勉強、一生青春」をキャッチフレーズに、自己責任、自助努力、自分の未来は自分で切り開くで、全市民が「いつまでも(死ぬ前の日まで)若々しく生きる」ことを目指して学び続ける街、「生涯教育日本一の街」を

②社会教育が、「家庭教育」と「学校教育」の不足するところを徹底的に補う足利を目指したい。

＊担い手は、60 歳以上の方で社会教育の分野から社会参加を果たしたい方全員。

(3)「産業教育日本一の足利」づくりのために

①「5S」の街足利、「足利 5S 学校」の全家庭、全職場、全教育機関への浸透を

②「5S」に続く「基礎教育」「統計的手法の活用」「標準化」「日常的業務の改善」「戦略的方针管理」「ISO」「シックスシグマ」「デミング賞」「国家(日本)経営品質賞」「TQM(総合質経営)」、すべての取り組み日本一の街足利を目指す。

→統計的手法の活用にとって「エクセル」の修得は必要不可欠なので、市内各所で低料金のエクセル講座の開設を

③すべての職場のリーダーに不可欠な「リーダーシップ教育日本一の足利」づくりを

(ア)「論語」

(イ)「貞観政要」(徳川家康が足利学校に改版を命じ、全国に広めたリーダーシップの古典中の古典)

(ウ)「相田みつを著作集」

④足利市内で先生と呼ばれるすべての方々に、「日本一の先生」と呼ばれるに値する教育・研修の場の開発を

(ア)カリキュラムの質

(イ)先生(教え手)の質

(ウ)マネジメントの質

＊日本国内からの投資、つまり足利進出だけでなく、外国からの対内直接投資(FDI)を足利に促進するためには、「ものや、こと」づくりにおいて高いレベルでの投資の受け皿、地域づくりが求められる。「5S」はとてもよい取り組み。これに加えて、質の高いマネジメント人材や質の高いビジネスパートナーの集積が求められるので、産業教育は必須。

- ⑤足利工業高校や足利工業大学付属高校は、高等専門学校を目指す。市内の高校や専門学校も高等専門学校を目指し、5年間の職業教育の徹底を図る。
- ⑥足利工業大学大学院に、社会人対象の MOT(Management Of Technology 技術経営)の修士課程と博士課程の設立を
- ⑦足利工業大学に、宇宙航空機学科と原子力学科の学部および大学院の設立を
- ⑧企業内大学、企業内大学院の設立と、正式な高等教育機関による単位認定のしくみづくりの促進を
- ⑨女性、障害者、および 60 歳以上の市民の社会参加率、労働参加率が日本一の街に。そのための能力強化、スキルアップ教育も日本一の街に

(4)「学校教育日本一の足利」づくりのために

- ①先生の教え方(教授法)日本一の街に
一教え方日本一の足利にするための仕組みを一
＊すべての段階の学校の先生が、日本で先生としての勉強が最もでき、先生としての力量が最も発揮できる街に
＊退職教員が日本で最も過ごしやすい街に(教員退職後の自己実現、日本一の街に)
- ②足利のすべての学校(小学校、中学校、高校、大学、短期大学、専門学校、大学院)の英語の授業は、原則、すべて英語で行えるよう先生の実能力向上を(10年計画で確実に実施を)
- ③30代の校長、教頭(副校長)の登用促進を
- ④幼稚園から大学院まで、外国人への教育支援日本一の足利を
＊外国人の児童・生徒・学生比率日本一の街に
- ⑤公立の低学費で高品質のすべて英語で教育する日本一のインターナショナルスクール(幼稚園から高校まで一貫教育)の設立促進を
- ⑥社会人学生比率日本一の大学、短期大学、専門学校、大学院のある街足利を

2. 介護、福祉、医療日本一の足利を

(1)足利赤十字病院を日本一の地域医療施設に

- ①急性期病院である足利赤十字病院と、慢性期病院である地域の病院・医院等との役割分担を明確化した上で、徹底的に足利赤十字病院と地域の病院・医院等の機能強化を支援し、足利赤十字病院と足利の病院・医院、介護、福祉施設を日本一の地域医療、介護、福祉地域に
- ②病院周辺に急性期病院である足利赤十字病院の支援施設を集積させ、そこで働く職員の能力強化を図る仕組みを整えた上で、日本一の急性期病院と慢性期病院をネットワーク化させた医療クラスターに
- ③両者に徹底的な支援を行い、足利医療・介護・福祉クラスターでの就業人口 3 万人以上を目指すべきだ

(2) 足利のすべての病院、医院、医療施設、医療サービス、介護施設、介護サービス、福祉施設、福祉サービスは独自能力を強化、日本一の内容・レベル・品質を目指す

① そのためには、経営者・経営幹部の経営能力の格段の強化が絶対条件

＊ 経営者・経営幹部の経営能力を強化する仕組みを、足利工業大学の MOT でスタート(上智大学や慶應義塾大学医学部などの協力を得て、技術経営の一分野として)

② 専門職員の日本最高レベルでの専門能力の強化も欠かせない

＊ 各専門職分野の能力強化にふさわしい教育機関を積極的に誘致し、市内の遊休施設を活用した研修事業の促進を

③ 日本一のレベルで医療、介護、福祉の専門職の能力強化の仕組みを整えることで、専門領域の能力強化を目指す人々の定住人口を 1 万名は増加させたい。

④ 混合診療、自由診療にも耐えられるレベルにまで自らの能力強化を図ることが、専門職として雇われる能力(エンプロイアビリティ employability)を備える上で欠かせないことは、誰でも知っている。この専門職の不安に応えることが、人口増加策、経済活性化の要諦と考える。

(3) 足利赤十字病院は日本一の急性期病院を目指し、地域の医療機関は日本一の慢性期病院を目指すことで日本一の医療の街を目指し、これに加えて、日本一質・レベルの高い介護、福祉を目指せば、足利は人々が安心して一生を過ごせる街になり、足利市の経済は活性化し、人口は 3 万人以上増加する。

3. 超円高に耐えられる足利市の産業構造に

(1) この超円高を現実のものとして、第一次産業から、第二次、第三次、金融、不動産、コンサルティング、IT などのソフト化産業に至るまで、すべての産業分野で何らかの国際化を図って乗り切る以外に、企業存続の道はない、税収確保の道はない。教育や医療、福祉、介護、行政サービス分野も国際化の例外ではない。

(2) 国際化に乗り遅れた企業は倒産し、自治体は税収不足、自治体破産に至る。国家は存亡の危機に陥る。超円高は失業率を押し上げる。

(3) この歴史上かつてない円高に対処するには、国際競争力を企業レベル、地域レベルで身に付ける取り組みを、企業や地域が一丸となって推し進める以外にない。

(4) その第一は、世界の共通語である「英語」によるコミュニケーション能力を足利市全体で飛躍的に上げること、足利市の第二公用語を英語にすることだ。

(5) 足利市の企業で働く人々の外国での勤務率(海外勤務率)を飛躍的に上昇させることだ。

① そのためには、グローバル人材(人財)の確保と能力強化、処遇のシステムづくりが欠かせない。

② 足利の企業の採用は、グローバル採用を原則とすること。日本への留学生で日本企業や役所等に就職を希望する人は一定の割合で採用し、海外展開を含む国際競争力強化に備えるべき

だ。

- ③企業等の国際化、国際競争力強化のベストプラクティスを市内外で積極的に発掘、徹底的にベンチマークする仕組みを足利市経済界を挙げて構築したい。
- ④国際化が進んだ場合の最大の課題は、国内の本社の役割の明確化と、国内での雇用の維持、確保、拡大だ。そのためには、海外展開に耐えられる RandD(研究開発)と販売網の拡大を担える能力強化が不可欠だ。企業ドメイン(事業領域)の転換に耐えられる人材育成は、すべての企業に求められる。→企業家精神に溢れた人材の育成の仕組みづくりを国際化を目指す企業に促し、足利市を挙げて支援することが大事だ。
- ⑤外国人の採用なくして企業の国際化は進まない。外国人にとって魅力的で住みやすい街づくりを徹底的に推し進めたい。「日本人同様、外国人の子育て環境日本一」を目指すべきだ。

4. 農業、林業に親しむ市民比率日本一の足利に

(1)足利ほど、平地と河川、森に囲まれた三者のバランスのよい緑豊かな地はない。

その農地や河川、森林が様々な危機に脅かされている。

(2)TPP はじめ自由化が避けがたい足利の農業をどのように守ったらよいか。

- ①専業農家と兼業農家に休耕地のすべてを委ね、足利のすべての農地を農業のために用いる「農地 100 %利用の足利市づくり」を農業政策の第一とすべきだ。
- ②農地の利用は専業農家と兼業農家が十分に話し合い、兼業農家が農業を続けられなくなったら、積極的に農地を専業農家や別の兼業農家に賃貸する仕組みをつくるべきだ。
- ③専業農家への企業の参入も積極的に奨励すべきだ。兼業での農業を希望する人への兼業農家も、積極的に奨励すべきだ。農業目的での農地売買も積極的に奨励し、足利市の農地は 100%すべて農業に用いることで、足利市の農家と農地を守り、足利市の食糧自給率の向上を図るべきだ。農業委員会と JA は、このために最大の支援をすることで活路を見い出すべきだ。
- ④志ある足利市民は、ロシアのダーチャ(宿泊施設付き小規模農園)に習い、積極的に兼業農家を目指し、「兼業農家率日本一の足利」を目指すべきだ。

(3)間伐が進まない足利の森や林は、自然保護だけでなく、森林火災の発生や CO₂対策、水資源の保護の上で大きな課題となっている。

- ①間伐に不可欠な路網整備を計画的に行い、市民が安心して森や林に入り自然と親しめる長期滞在型の森林観光を、足利の観光の中心にすえたい。
- ②同時に、路網を整備し、間伐で森や林に人が入って住める場所にする事で、市民が森林にも別荘を持ち、生活できる足利をつくりたい。
- ③フィンランドの作家(ムーミンの作者)トーベ・ヤンセンは、小さな島に小さな小屋を持ち、休日を過ごしたという。足利市民は、足利市の森や林に小さな小屋を持ち、休日を過ごしたらどうか。

森や林で休日を過ごす人々が増えてくれば、森林に対する理解も深まり、足利の森林の整備も大幅に進む。

5. 自然と精神を大切に足利に

- (1) 足利は信仰心が厚く、150 もの寺院があると聞き及ぶ。足利は、寺院や神社、自然を大切にしながら自らの精神の充実を求めるには最もふさわしい都市と考える。
- (2) 自然と精神を大切に人々を迎えるに値する街づくりを行えば、現在の足利市民はますます足利を愛するようになり、また、他所から移り住む人も自然と増えると考え。
- (3) 自然と精神を結びつけるものは「文化」であると考え。足利市に長く存在する文化的価値のあるものを自らの手で見つけ出し、磨き込み、現代に生かすことが、足利経済活性化の最後の課題となる。
- (4) 足利市民のアイデンティティ、存在価値、存在証明となるような文化的価値とは何か。心の風景となるものは何か。
- ① 足利文様や両毛通信(旧みにむ)、足利漫我人などの文芸誌、ミニコミ誌などは高い評価だ。
 - ② 両毛新聞や織姫新聞などの足利市の地方紙も極めて珍しい。
 - ③ アラジンやカフェド・フルカワはじめ特色ある cafe も多い。
- (5) 言いにくいことだが、足利の人々は、足利で活躍する人や足利を出て活躍している人をほめたり、高く評価したりすることが極めて苦手のように思える。逆に、マイナスの評価をしたり、足を引っ張ったり、背を押して崖から落としたりしてしまうことすらする人がいるようだ。これでは、いやな思いをしたくない人は足利から出て行かざるを得ないし、足利に来る人もいない。
- 頑張っている人は素直にほめ、ますます頑張るよう励ます寛容な心を持つことが、足利経済活性化の第一歩と考える。

以上